



富士通サーバ『PRIMERGY RX200 S8 / RX350 S7』
富士通テープライブラリ『ETERNUS LT40』
Acronis Backup & Recovery 11.5 Advanced Server
イメージバックアップ動作検証報告

2014年4月

アクロニス・ジャパン株式会社

目次

- 1. 検証の概要
 - 1.1 検証の内容
 - 1.2 検証期間・場所
- 2. 検証環境
- 3. 動作 検証
 - 3.1 検証構成
 - 3.2 検証構成
 - 3.3 検証構成
- 4. まとめ
 - 4.1 検証内容・結果
 - 4.2 お問い合わせ先

1. 検証の概要

• 1.1 検証の内容

Acronis Backup & Recovery 11.5 Update2 (Build38350) Advanced Server 以下 (ABR11.5) のイメージバックアップ動作検証を下記の構成にて実施しました。

検証構成①

バックアップ対象: PRIMERGY RX200 S8 (Windows Server 2012/Red Hat Enterprise Linux 6.4)

バックアップ保存先: NAS (Windows Storage Server 2008R2)

検証構成②

バックアップ対象: PRIMERGY RX350 S7 (Windows Server 2008R2)

バックアップ保存先: ETERNUS LT40 (直接接続)

検証構成③

バックアップ対象: PRIMERGY RX200 S8 (Windows Server 2012)

バックアップ保存先: ETERNUS LT40 (ネットワークにて集中管理格納域として接続)

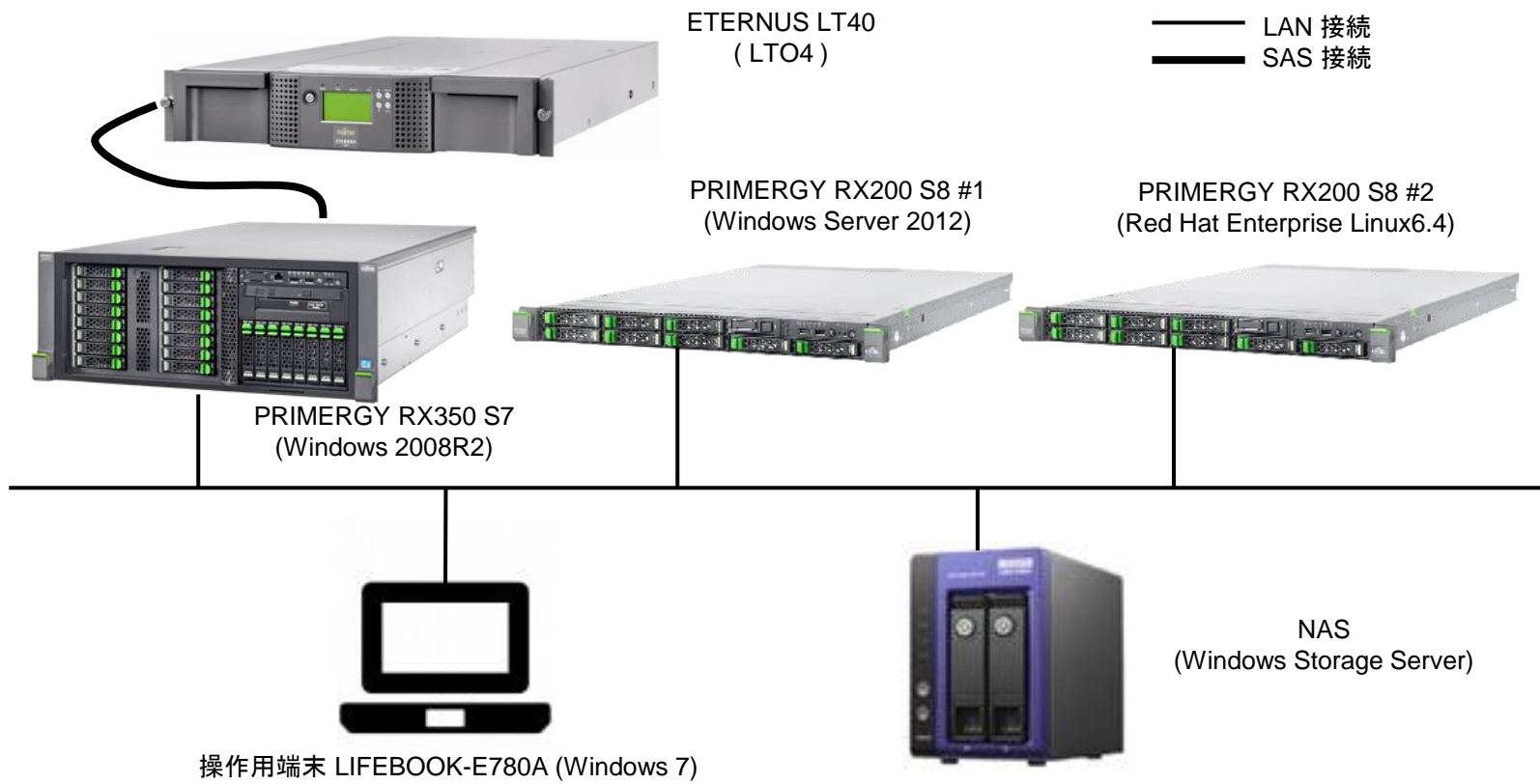
• 1.2 検証期間・場所

– 期間: 2014年3月18日~25日

– 場所: 富士通検証センター(東京・浜松町)

2. 検証環境 -1-

- 検証環境の全体構成



2. 検証環境 -2-

PRIMERGY RX200 S8 #1	
CPU	Xeon E5-2697 v2 2.70GHz / 12コア × 2
Memory	16GB
RAID Controller	SASアレイコントローラ PYBSR2C
NIC	Intel(R) I350 Gigabit Network Connection
OS	Windows Server 2012 Standard
ABR11.5 コンポーネント	エージェント for Windows、管理コンソール、コマンドライン ツール、トレイ モニタ

PRIMERGY RX200 S8 #2	
CPU	Xeon E5-2697 v2 2.70GHz / 12コア × 2
Memory	16GB
RAID Controller	SASアレイコントローラ PYBSR2C
NIC	Intel(R) I350 Gigabit Network Connection
OS	Red Hat Enterprise Linux 6.4 x64
ABR11.5 コンポーネント	エージェント for Linux、管理コンソール

2. 検証環境 -3-

PRIMERGY RX350 S7	
CPU	Xeon E5-2603 1.80GHz / 4コア × 2
Memory	16GB
RAID Controller	SASアレイコントローラ PYBSR2C
SAS Controller	SAS コントローラカード(6Gbps) PY-SC2Z0
NIC	Intel(R) I350 Gigabit Network Connection
OS	Windows Server 2008R2 SP1 Standard
ABR11.5 コンポーネント	エージェント for Windows、管理コンソール、コマンドライン ツール、トレイ モニタ、ブータブル メディア ビルダ、(管理サーバ、ライセンス サーバ、ストレージ ノード)

ETERNUS LT40	
Drive	Ultrium 4 Half Height × 1
I/F	SAS
媒体	Ultrium 4 テープ × 3

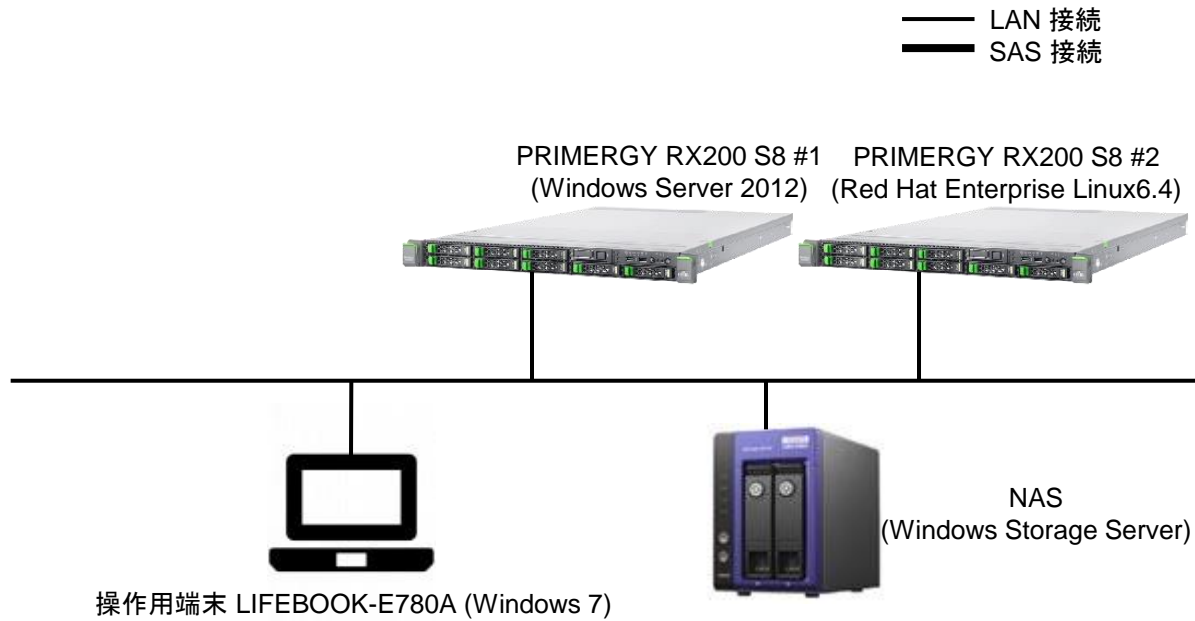
2. 検証環境 -4-

NAS	
メーカー	I-O DATA HDL-Z2WSA
OS	Windows Storage Server 2008R2 Workgroup
プロトコル	CIFS (SMB)

操作用端末 LIFEBOOK-E780A	
CPU	Core i7-620M
Memory	4GB
OS	Windows 7 Enterprise
リモート接続方法	リモートデスクトップ、iRMC

3. 動作 検証 1-1

• 3.1 検証構成



バックアップ対象: PRIMERGY RX200 S8 (Windows Server 2012/Red Hat Enterprise Linux 6.4)

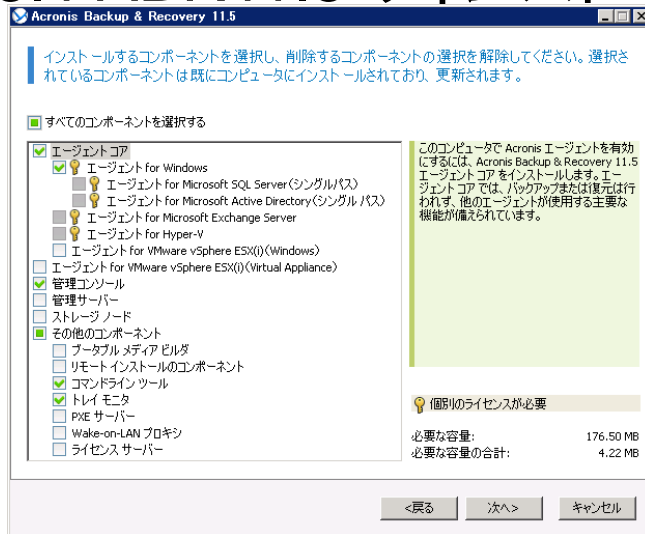
バックアップ保存先: NAS (Windows Storage Server)

イメージ バックアップの実行: 操作用端末からWindows /Linuxの各バックアップ対象へリモートデスクトップおよびiRMCから接続して管理コンソールからオンラインにてバックアップを実行。

イメージからのベアメタルの復元: 操作用端末からWindows /Linuxの各復元対象へiRMCから接続してブータブルメディアから起動、オフラインで復元を実行。

3. 動作 検証 1-2

3.1 ABR11.5のインストールと構成



PRIMERGY RX200 S8 #1 (Windows Server 2012)構成では

エージェント for Windows、管理コンソール、コマンドライン ツール、トレイ モニタのABR11.5コンポーネントをインストールします。ライセンス(プロダクト キー)をコンピュータのローカルに保存してエージェント for Windowsにローカルで管理コンソールからアクセスします。

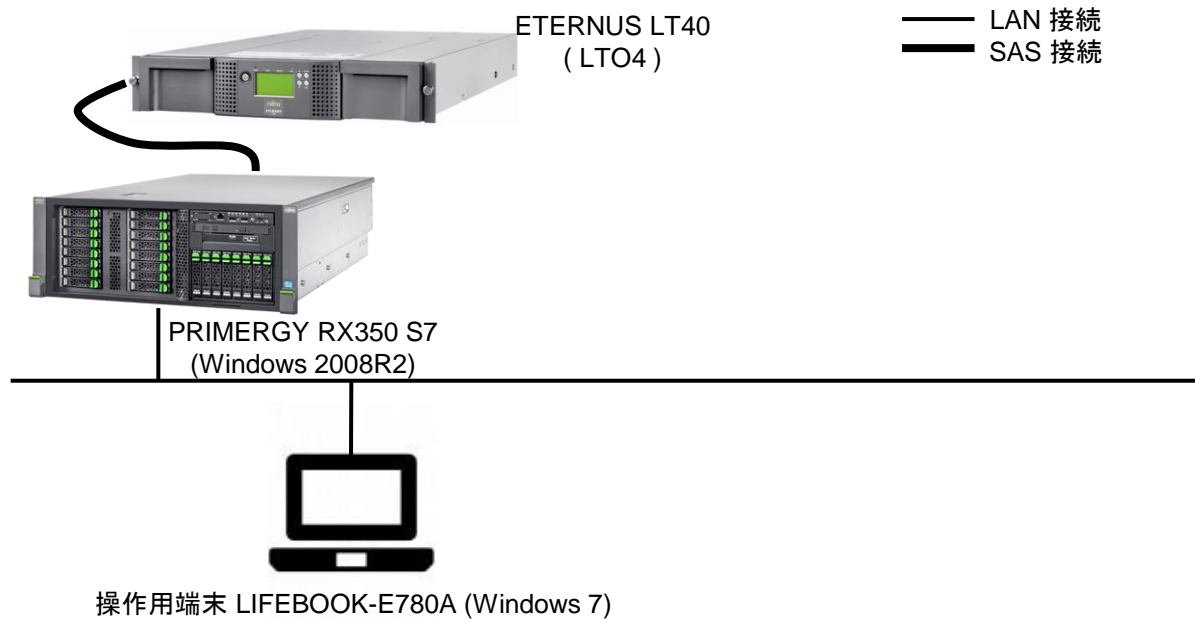


PRIMERGY RX200 S8 #1 (Red Hat Enterprise Linux 6.4)構成では

エージェント for Linux、管理コンソールの ABR11.5コンポーネントをインストールします。ライセンス(プロダクト キー)をコンピュータのローカルに保存してエージェント for Linuxにローカルで管理コンソールからアクセスします。

3. 動作 検証 2-1

• 3.2 検証構成



バックアップ対象: PRIMERGY RX350 S7 (Windows Server 2008R2)

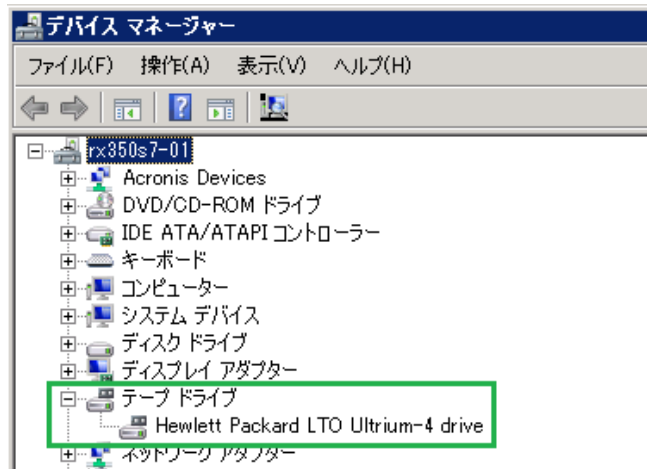
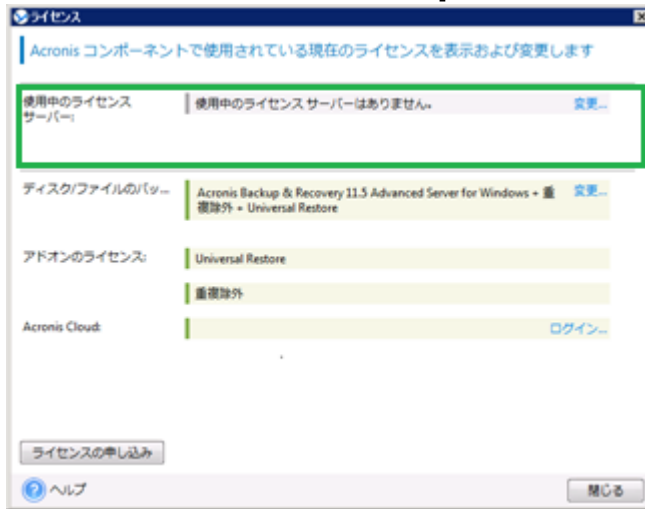
バックアップ保存先: ETERNUS LT40 (直接接続)

イメージ バックアップの実行: 操作用端末からバックアップ対象へリモートデスクトップにて接続して管理コンソールからオンラインにてバックアップを実行。

イメージからのベアメタルの復元: 操作用端末から復元対象へiRMCから接続してブータブルメディアから起動、オフラインで復元を実行。

3. 動作 検証 2-2

• 3.2 ABR11.5のインストールと構成



PRIMERGY RX350 S7 (Windows Server 2008R2)構成では

エージェント for Windows、管理コンソール、コマンドライン ツール、トレイ モニタ、ブータブルメディア ビルダのABR11.5コンポーネントをインストールしています。

ライセンス(プロダクト キー)をコンピュータのローカルに保存してエージェント for Windowsにローカルで管理コンソールからアクセスします。

ETERNUS LT40 テープドライブ を利用する場合、

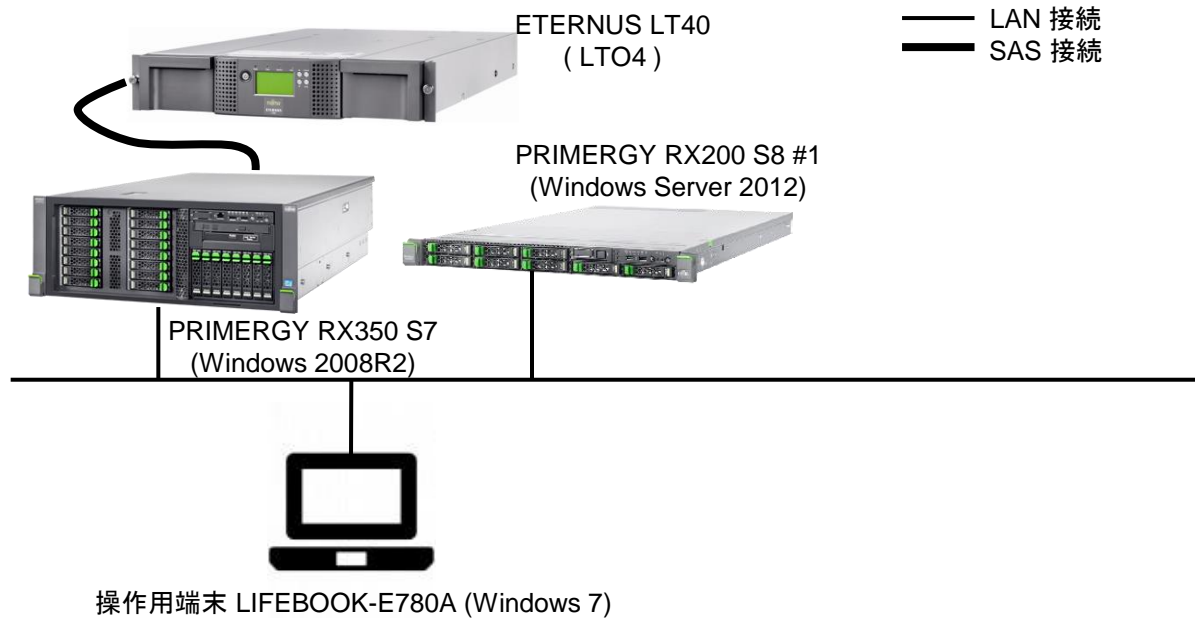
ABR11.5ではテープドライブ社製のテープデバイスドライバを使用します。

今回の検証では

“FTS_DriverforLTO12345tapedrivefromHewlettP_1061_1050707”を使用しました。

3. 動作 検証 3-1

• 3.3 検証構成



バックアップ対象: PRIMERGY RX200 S8 (Windows Server 2012)

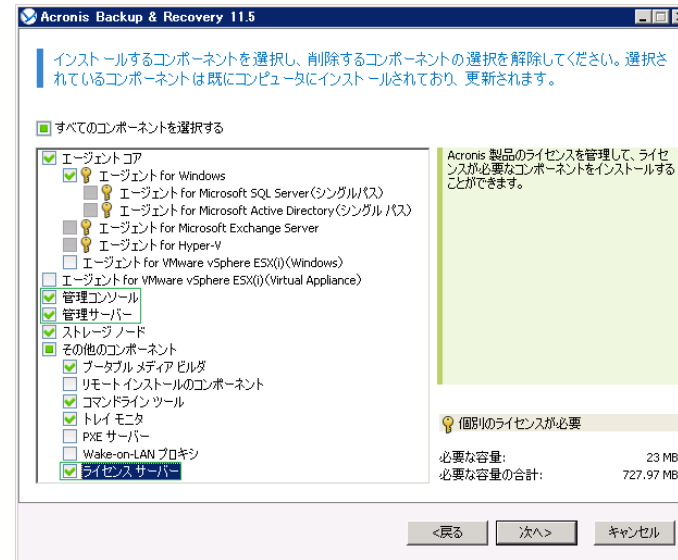
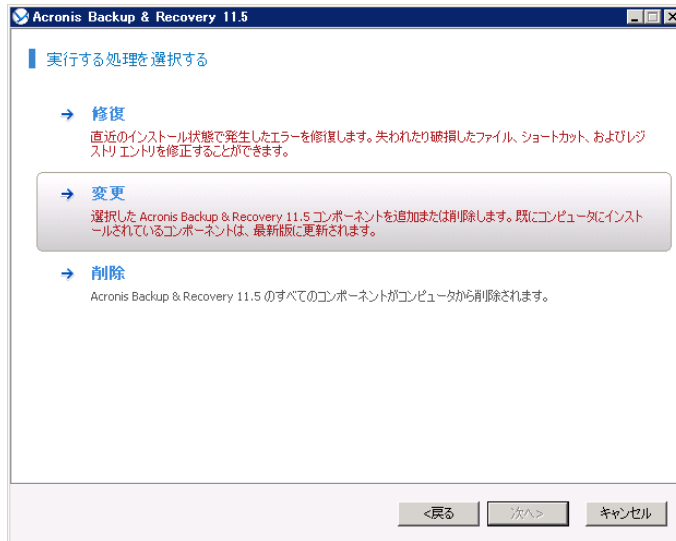
バックアップ保存先: ETERNUS LT40 (集中管理格納域として接続)

イメージ バックアップの実行: 操作用端末からPRIMERGY RX350 S7 (Windows Server 2008R2)へリモートデスクトップにて接続して管理コンソールから管理サーバへ接続してバックアップを実行。

イメージからのベアメタルの復元: 操作用端末から復元対象へiRMCから接続してブータブルメディアから起動、オフラインで復元を実行。

3. 動作 検証 3-2

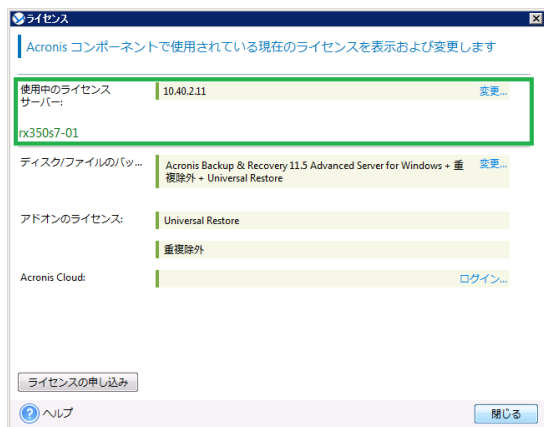
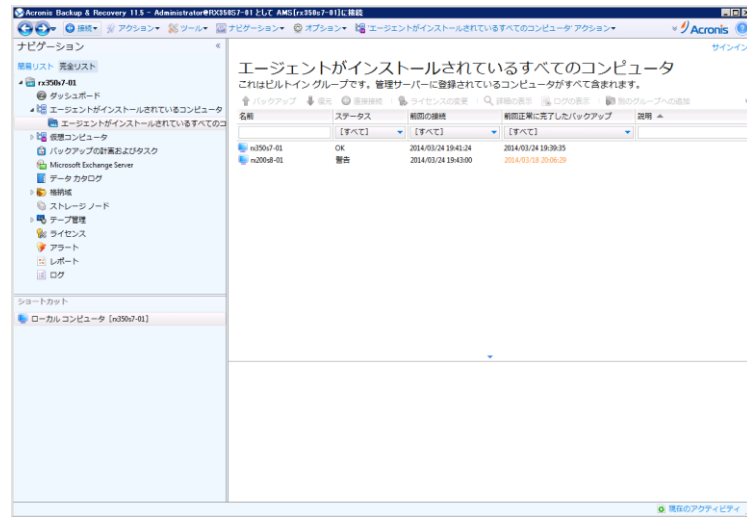
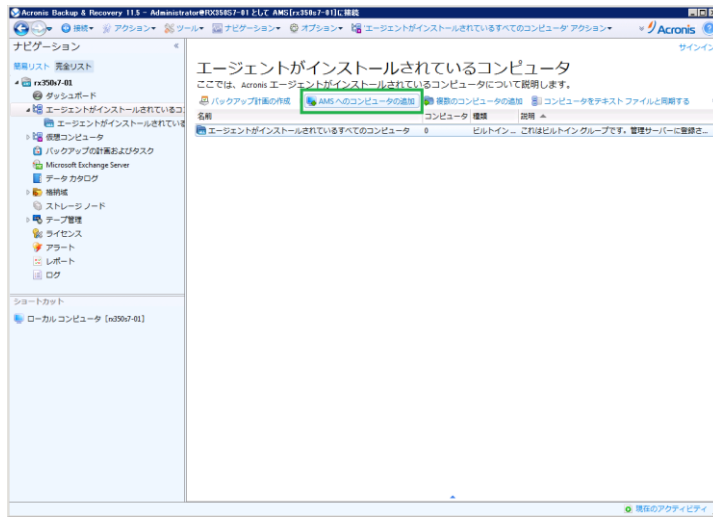
• 3.3 ABR11.5のインストールと構成



PRIMERGY RX350 S7 (Windows Server 2008R2)構成
管理サーバ、ライセンスサーバ、ストレージノードのABR11.5コンポーネントを追加でインストールします。

3. 動作 検証 3-3

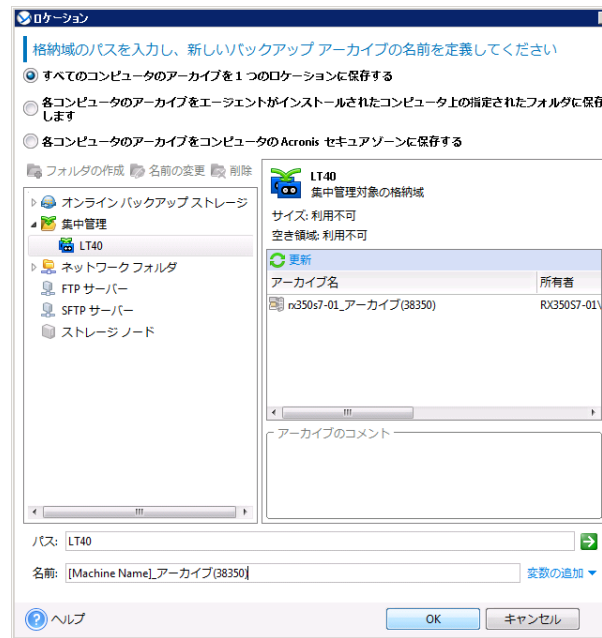
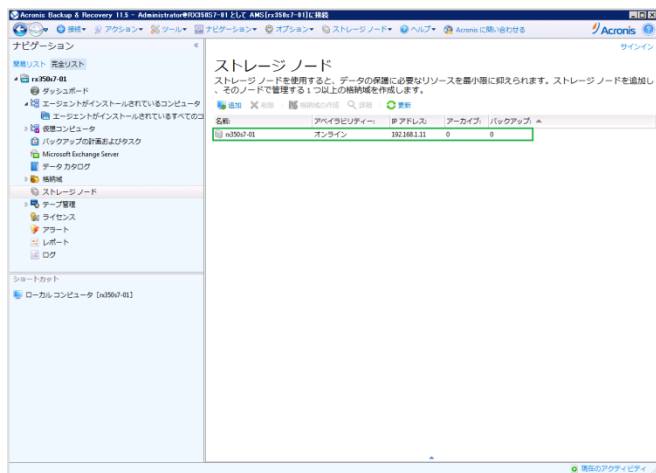
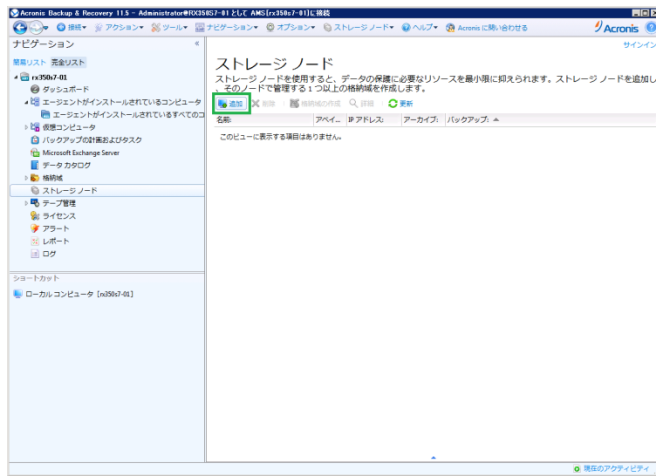
• 3.3 ABR11.5のインストールと構成



管理サーバにコンピュータを登録すると手動で入力したライセンス(プロダクト キー)はライセンス サーバにインポートされ、ライセンスの一覧に表示されます。今回の検証では rx2008s8-01(PRIMERGY RX2008 S8 Windows Server 2012) および rx350s7-01(PRIMERGY RX350 S7 Windows Server 2008R2) を管理サーバに登録しました。

3. 動作 検証 3-4

• 3.3 ABR11.5のインストールと構成



集中管理の格納域としてテープデバイスを使用する場合、[ストレージノード]コンポーネントがインストールされたWindowsコンピュータにデバイスを事前に接続する必要があります。
管理サーバにテープデバイスを集中管理の格納域として登録します。

4. まとめ -1-

• 4.1 検証内容・結果

検証構成①

イメージ バックアップの実行: 操作用端末からWindows /Linuxの各バックアップ対象へリモートデスクトおよびiRMCから接続して管理コンソールからオンラインにてバックアップを実行。

イメージからのベアメタルの復元: 操作用端末からWindows /Linuxの各復元対象へiRMCから接続してブータブルメディアから起動、オフラインで復元を実行。

検証構成②

イメージ バックアップの実行: 操作用端末からバックアップ対象へリモートデスクトップにて接続して管理コンソールからオンラインにてバックアップを実行。

イメージからのベアメタルの復元: 操作用端末から復元対象へiRMCから接続してブータブルメディアから起動、オフラインで復元を実行。

検証構成③

イメージ バックアップの実行: 操作用端末からPRIMERGY RX350 S7 (Windows Server 2008R2)へリモートデスクトップにて接続して管理コンソールから管理サーバへ接続してバックアップを実行。

イメージからのベアメタルの復元: 操作用端末から復元対象へiRMCから接続してブータブルメディアから起動、オフラインで復元を実行。

検証構成①、②、③にてイメージ バックアップの実行およびイメージからのベアメタル復元について正常動作を確認しました。

※テープライブラリETERNUS LT40については、LTO4 テープドライブとして使用しました。

4. まとめ -2-

- 4.2 お問い合わせ先

- アクロニス セールス インフォメーション センター

- <http://www.acronis.co.jp/company/contacts.html>

※お問い合わせ時は「富士通サイトの検証事例を見た」とご伝言ください。



www.acronis.co.jp

 @Acronis_Japan

 AcronisJapan